不透明な政治の歴史に終止符を！
市民が主役のまちを創ろう

市民目線の施策を積み上げて

かすみがうら市議会議員 みやじま謙活動報告
つばさ通信
第13号

つくば市の市民公募委員制度や守谷市のまちづくり協議会など、県内各地で市民参画型の行政運営が広がっています。

しかしかすみがうら市では残念ながら、たびたび市民不在の政治が行われてきました。かすみがうら市の将来を市民が真剣に考え、行動する時がきています。

始まりは両町合併

かすみがうら市が誕生して13年が経過しましたが、この間、じつに様々な問題が浮上してきました。

そもそも千代田町と霞ヶ浦町の合併について、民意がどれほど反映されたのでしょうか。合併特例債を材料に市町村合併を促す国策の波があったにせよ、土浦市からの誘いを蹴って2町での合併が進められてしまったこと、しかもこれほどの重大案件が、住民アンケートすらなく、一部の人間だけで決められてしまったことを、私たちは忘れてはなりません。

市民不在で問題多発

反対運動が起きた霞ヶ浦庁舎の建設についても、本当に必要だったのでしょうか。

あの時、市の中央地域に統一庁舎を整備していれば、両町の合併効果は大きくもたらされたに違いありません。しかし現実は、建設費十数億円をかけてわざわざ不便な分庁舎方式をとってきたことで、今でも市の発展に大きなハンデとなり続けています。

教育分野においてはどうでしょうか。

霞ヶ浦地区から遅れること6年、千代田中地区の学校統合がやっと進み始めました。

この問題の原点は、平成22年の志築小学校移設新築に遡りますが、旧志築小校舎の老朽化対策について、地元は移設を希望していなかったといいます。

その意向を無視して移設新築が決められ、さらに水面下で、4小学校の統合をも設計に織り込まれたことが、その後の大混乱を招いているのです。

田谷文子議員などの精力的な働きかけもあって、やっと本来あるべき形へと軌道修正がなされましたが、過ぎ去った6年は戻りません。

新ごみ焼却場建設計画も、市民不在の典型と言えます。

現有施設は毎年きちんと整備されており、まだ十分に使えるのですが、「老朽化」を理由に新規建設計画が進められています。

しかし、現有施設があと何年使えるのか、長寿命化工事にいくらかかるのか、調査がまったくされていません。当然、市民への合理的な説明もないままです。

しかも、建設および20年間の運営を一括して発注する入札では、10億円も高いグループに落札させており、その選定経過の詳細も公開されていないのです。

すべての権力は腐敗する

くしくも国会では、森友問題に関連して小泉進次郎議員が「すべての権力は腐敗する」とコメントしましたが、地方議会においても、住民の知らない間に、知らないところで、民意とかけ離れた政治が行われれば、被害を被るのは、その地域の住民に他なりません。

かすみがうらの不透明な政治の歴史に、今こそ終止符を打つ時ではないでしょうか。市民の意思を十分にくみ取り、市民目線の施策を積み上げて、「市民が主役」の住みよいまちを、みんなで創っていくべきだと思うのです。

いまこそ市政の健全化を！

少子高齢化が進む今、市の停滞を打破するには、抜本的な体質改善が必要です。
積極的情報公開、市民参加による意思決定、子育て支援の推進、市民の困りごとにすぐ取り組む役場体制を整えて、健全なかすみがうら市政を創りましょう！

市民の要望に即応するために 生活安心課の創設を

要望が放置されている？

市民の方から役所へさまざまな要望や苦情が寄せられていますが、「市役所に、なんとかして欲しいと要望したが、その後、なんの音沙汰もない」「何年も前に言ったが、放って置かれたので、あきらめた」

などという声が聞かれます。これが何千件ものうちの1件、たまたま起きた処理漏れであればまだしも、私の狭い活動範囲で、何回もそのような話を聞くことがあるのですから、多くの市民の方も同じような感想をもっているのではないでしょうか。

こうした市民への対応でもっとも避けなければならないことは、受け付けたまま放置することです。対応してくれるのかくれないのか、いつまでにやってくれるのかが伝えられないまま時間だけが過ぎていく。市民にとってこれほど腹の立つことはありません。

責任をもって寄り添う

なぜこのようなことが起きるのでしょうか。職員は日々の業務に忙しく、かつ業務の分担化が進んでいるため流れ作業的な仕事の仕方とならざるを得ず、結果的にその事案の解決を見届けることができないのです。

これを解決するためには、相談窓口を一本化し、責任をもって解決まで寄り添う仕組みが必要です。

例えば生活安心課といった部署を設置し、担当職員は問題が決着するまで相談者をサポートするのです。中には実現不可能な相談もあるでしょうが、市民に寄り添って解決に努力する姿勢と仕組みが、信頼を生むのです。

歩いて暮らせるまちを目指して 旧・小学校区ごとに交流拠点整備を

全国的に少子・高齢化、人口減少対策が課題となっていますが、かすみがうら市においても、跡継ぎ不在による集落存続の危機が、すぐ目の前に迫っています。

子育て支援、産業振興、企業誘致など、人を増やす努力が大切ですが、その一方で、たとえ人口が減少しても、安心して暮らしていくための対策を講じていくことが肝心です。特に高齢者中心の地域においては、移動手段も十分ではなくなりますから、「歩いて暮らせるまち」をつくっていかなければならないのです。

そのためには、せめて旧・小学校区ごとに、日常的に通える居場所が必要です。そしてそこでは、最低限の公的手続きができ、かつ福祉サービスや子育て支援などが受けられ、趣味のサークル活動などもできることが望まれます。

行政はこれから、地域コミュニティに力を入れなければならないと思うのです。

明日への思い

新年度の予算に、千代田・石岡インター付近での工業団地開発の調査費が盛り込まれました。県内各地の工業団地が売れなくて困っている時に、山林や谷地田が入り組んだ不適地を、公費で大規模開発しようという発想には疑問を覚えます。

かすみがうら市に必要なのは、暮らしやすさの向上です。市民生活の「困った」を「良かった」に変えていくために、行政の体質改善が求められているのです。

お正月イベントお城市にて

TOPICS

あじさい館に「きずなボックス」設置

私も会員となっている「食の助け合い」活動を行うNPO法人フードバンク茨城の食品寄付箱「きずなボックス」が、千代田ショッピングモール（矢口龍人議員経営の農協そば店舗前）に続いて、あじさい館にも設置されました。

フードバンクとは、賞味期限内でまだ食べられるにも関わらず、包装ミスや返品など、様々な理由で廃棄されてしまう食品や、家庭で消費されずに残っている食品を寄付していただき、それを経済的に困っている方へ無償で提供する活動です。「きずなボックス」は、ご家庭からの食品を入れていただく箱のことです。

かすみがうら市はこれまで、多くの食品をフードバンクからいただいています。ですから、食品を寄付する側としても協力していきたいと思うのです。

2か月以上賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品（缶詰、レトルト、白米、麺類、お菓子など）を、ぜひ寄付してください。新規購入品も歓迎です。

あじさい館のきずなボックス

千代田と出島は鳥の両翼
心合わせて羽ばたこう！

みやじま謙の「創ろう！かすみがうら市新時代」
ブログ大好評配信中！